


分野	31	地域活動・市民活動	通番 57
施策	312	市民活動の活発化と協働の促進	
5年後の目標		生活の充実につながる市民活動が活発化し、団体の活動や活動団体相互の協働がまちづくりの力になっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	市民参画協働推進事業		会計	款	項	目	1,476,178	自治振興室
			一般	2	1	19		
事業の概要								
市民活動団体への財政的支援や活動拠点の提供、幅広い市民の参画の促進、情報発信や啓発などを実施します。 また、計画的に施策を進めるため、計画の策定及び進行管理を行います。								


令和元年度の取組								
D (取組)	指標(H30年度～)	「長岡京市市民協働のまちづくり推進プラン」施策の達成率				単位	%	
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
	58.9(平成28年度)	目標	/			62.0	63.0	65.0
		実績	/			64.7	70.8	
<ul style="list-style-type: none"> ・市職員の協働意識の向上に向けて、入所1・2年目の職員に向けて職員研修を行いました。 ・市民参画協働懇話会を1回実施(新型コロナウイルス感染拡大防止のため1回中止)し、市民協働のまちづくり推進プランの進行管理や補助金事業について意見聴取しました。 ・市民活動団体に市民活動応援補助金を交付し、財政的支援をしました。また、活動発表会を市民活動サポートセンターと3月に共催予定でしたが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、代わりに市ホームページで活動内容の紹介を行いました。 					市民活動オフィスフロア			
								

施策の「5年後の目標」に対する評価 令和元年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—			—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動応援補助金を11件(1,194千円)交付し、市民活動団体に財政的支援をしました。特に、「提案公募型事業コース」を「自由提案型協働事業コース」に変更し、市民活動団体が自由に課題と事業を提案できる補助金となったため、想定を超える申請件数となりました。また、昨年度に引き続き、スタートアップコースの秋募集を行いました。 ・市民活動オフィスフロアは6団体7ブースの利用がありました。 ・パブリックコメント制度を活用し6件の案件について市民からの募集を募りました。 	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体の財政的自立に寄与する市民活動応援補助金制度について制度が適正かどうか引き続き検討していく必要があります。 ・市民協働のまちづくり推進プランの令和3年度から開始する新プラン策定に向けて推進状況を検証する必要があります。 			

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動応援補助金制度について実際の採択団体やそのほかの市民活動団体、懇話会委員の意見を取り入れ、より効果的な制度となるよう検討します。 ・引き続き、市民協働のまちづくり推進プランに基づいた施策の研究・実施を図るとともに、現プランが令和2年度で終了となることから、推進状況を検証し市民参画協働懇話会に意見を聴取して、令和3年度から開始する新プランを策定します。

分野	31	地域活動・市民活動	通番 58
施策	312	市民活動の活発化と協働の促進	
5年後の目標		生活の充実につながる市民活動が活発化し、団体の活動や活動団体相互の協働がまちづくりの力になっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	市民活動サポートセンター 管理運営事業		会計	款	項	目	8,564,000	自治振興室
			一般	2	1	14		
事業の概要								
市内のNPO法人などの市民活動団体の広がりや、ステップアップ、団体と多様な主体との連携を促進するため、市民活動サポートセンターを中間的な支援機能を担う拠点として、指定管理者制度を活用し、民間のノウハウを持つ団体が、市民への紹介、団体同士及び団体と市民のネットワークづくりの支援、新規に活動をしたいと考える市民に対する相談及びアドバイスを行います。								

令和元年度の取組							
D (取組)	指標	ネットワークに関する延べ相談件数				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	51(平成26年度)	目標	57	60	63	66	70
		実績	57	40	20	28	
<p>・一般社団法人市民活動ネット・チーム長岡京を市民活動サポートセンターの指定管理者として、①団体同士や団体と市民のネットワークづくりの支援 ②センターや協働を市民に知ってもらうための各種事業 ③団体や活動をしたいと考える市民に対する相談及びアドバイス ④登録団体のスキルアップのための研修会などを実施しました。</p> <p>・ホームページ、フェイスブック、広報誌「サポセン通信」等により、市民活動サポートセンターを周知しました。</p> <p>・広報長岡京で市民活動サポートセンターに関する特集記事を掲載しました。</p> <p>・地縁団体・テーマ型団体との交流会を3月に予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。</p>					研修会の様子		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価						
令和元年度の達成状況						
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド		対応員
		市民活動サポートセンター登録団体数		・団体主催者の高齢化等により登録団体総数は減少傾向だが一時的な機器利用目的以外の新規登録団体は増加しています。		
	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	<p>・登録団体数(施設利用ができる団体数)は平成30年度の186件から169件に減少していますが、利便性から一時的なコピー機利用のみを求める団体が増加傾向であったものであり、一時的な機器利用目的の登録を除いた新規登録団体数は平成30年度よりも令和元年度の方が多くなっています。</p> <p>・ネットワークに関する相談件数は目標を達成できていませんが、職員の研修や広報等のPRにより、徐々に活動に関する具体的な相談が増えてきており、中間支援組織として存在感を発揮してきているといえます。</p>		
課題等	<p>・市民活動サポートセンターの中間支援組織としての役割が市民活動に興味のある市民や活動団体に十分に届いておらず、認知度が低いと考えられます。</p> <p>・機器利用やミーティングスペースの利用支援のみといった利用者が多い状況です。</p>					

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>・引き続き市民活動サポートセンターの利用方法や相談方法をホームページや市広報紙、登録団体へのメールマガジンなどで周知活動を行います。</p> <p>・活動に対して的確に助言を行える中間支援組織となるよう、スタッフのスキルアップに努めます。</p> <p>・団体間の交流を深めるため、交流会を開催します。また、対象を地縁団体にも広げ、テーマ型と地縁型のネットワーク強化に努めます。</p>

分野	31	地域活動・市民活動	通番 59
施策	312	市民活動の活発化と協働の促進	
5年後の目標		生活の充実につながる市民活動が活発化し、団体の活動や活動団体相互の協働がまちづくりの力になっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	多世代交流ふれあいセンター 管理運営事業		会計	款	項	目	31,228,951	多世代交流ふれあいセンター
			一般	2	1	20		
事業の概要								
市西部の地域活動・市民活動を支える拠点として、また世代を超えた市民の幅広い交流を促進し、市民活動、男女共同参画、地域福祉、健康づくり及び生涯学習に寄与する場の提供、充実を図ります。								

令和元年度の取組							
D (取組)	指標	多世代交流ふれあいセンター利用者数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	32,387 (平成26年度)	目標	34,500	35,500	36,500	37,500	38,500
		実績	41,246	38,725	38,853	33,355	
	指標	多世代交流ふれあいセンター利用登録団体数 (生涯学習・市民活動オフィス・男女共同参画・健康福祉のフロア計)				単位	団体
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	141(平成26年度)	目標	149	154	158	163	168
		実績	151	142	154	161	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ロビーに飲食可能なスペースを確保しました。 ・交流室の天井改修工事(附帯設備を含む)を行い、利便性の向上を図りました。 					交流室での活動の様子	
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		主な社会教育施設の利用者数		年間約40万人(社会教育ホールなど市5施設の計)で推移しています。
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・「生涯学習フロア」の利用者数は、23,299人、また、全てのフロアまで加えたセンター全体の利用者数は、33,355人となりました。交流室の天井改修工事(令和2年1月~3月)及び新型コロナウイルス感染症拡大予防のため貸館業務(令和2年2月~令和2年5月)が閉鎖となり、利用者数が減少しています。 ・利用登録団体数については、新規登録が8団体(生涯学習フロア7団体、男女共同参画フロア1団体)ありました。 	
	課題等		・利用者の増加により、曜日によっては駐車場が混雑する傾向があります。車両事故や周辺からの苦情が無いよう、適切な施設維持管理方法をとる必要があります。併せて、施設改修としてバリアフリー化、天井改修工事時に判明した屋根防水改修等についても課題となっています。	

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根防水改修や段差解消などのバリアフリー化について、検討します。 ・駐車場については、西山公園体育館の駐車場と調整し、利用者に負担をかけないように調整を図ります。